

新年のご挨拶



チャレンジ元年

佐渡市長 三浦基裕

新年あけましておめでとうございませう。皆さまにおかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年で合併14年目に突入しますが、2017年は、佐渡市にとっていろいろな意味でのターニングポイントになる1年といえるかもしれません。

4月1日には、いわゆる国境離島特措法（有人国境離島地域の保全及び特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法）が施行されます。これにより離島の航路・航空路運賃のJ-R並みの低廉化などが実現する予定です。

離島活性化への心強い追い風となりそうですが、佐渡市としても能動的に再生への施策を講じなければなりません。

この島は①地場産業の再生と雇用の受け皿作り、②少子高齢化の歯止めと子育て支援、③島内循環型の流通の実現、④佐渡金銀山の世界文化遺産登録へ向けた国内推薦の獲得、など長期的なものから喫緊のものまで、数多くの課題を抱えています。今年、これらの目標、課題に向かっている「チャレンジ元年」と位置づける必要があります。

現在、新年度（2017年度）予算作りの真つ最中ですが、12月議会では、その布石となる補正予算も組ませていただきました。土木事業等では、年間で最も作業効

率のよい4～6月に発注できていなかった長年の課題解消のため、次年度を見越しての先取り補正予算を計上し、これを通例化することで公共事業発注時期の平準化を実現します。

また、循環型の流通促進を目指し、公共の財源は可能な限り島内に振り向けることで活性化につなげたいと考えています。

これまでの行政組織では、縦割り意識が強く、部門間の連携や情報共有などに多々問題が生じていた現状を打破し、意識改革を促進するとともに、スピードのある対応と柔軟な部門間連携をするため、組織の改変に取り組みます。

市の政策や行革等の企画・立案を行う部署を設置し、従来の市長部局を4つのグループにくくり、それぞれのグループ同士の連動や、グループ内での情報共有などを強化していきます。一貫した子育て支援を行う課や、地場産業再生を目指す課なども新設し、重要テーマや懸案に柔軟に対応できる行政サービスにつなげていきたいと思ひます。

市民の皆さまの声を聞ける機会を設けながら、ガラス張りの行政を目指したいと思ひます。

本年が皆さまにとって実り多き年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。